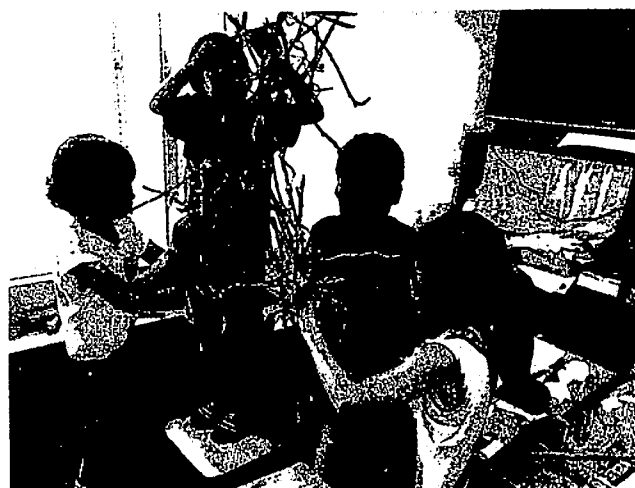


印旛郡図工・美術研究部テーマ

# 「造形教育はこれからも未来をつくる」

～身に付けさせたい力は何かを問う～

友達との関わりを通して表現する児童の育成  
～付けたい力を明確にした指導の在り方～



令和元年8月27日（火）ヒルトン成田

八街市立八街東小学校 森川 琢也

## 友達との関わりを通して表現する児童の育成 ～付きたい力を明確にした指導の在り方～

### 1 研究主題について

#### (1) 小学校指導要領の改訂から

小学校学習指導要領において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが示され、子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める「共同的な学び」が実現できているかという視点が挙げられている。図画工作科の学習において、児童が自分の作品を仕上げる過程で、題材に対する自己の見方や考え方を広げながら造形活動に取り組むことが重要である。友達の様々な表現にふれ、作品に対する自己のイメージや考えを膨らませることができるようにする必要がある。本研究では、友達との交流を通して、互いの表現の仕方よさや違いを認め合ったり、友達の表現の工夫にふれたりすることで、作品に対する自己の見方・考え方を広げながら作品をつくる児童を育成することをねらいとする。

付きたい力を明確にした指導については、図画工作科の指導を通して育成する能力を明確にし、児童が「何を理解しているか、何ができるか」を踏まえて指導を充実させていく。児童が自分なりの表現をしようとする際に、知識や技能なしに、思考や表現を深めることは難しい。本研究では、各題材において児童に身に付けさせるべき技能の定着を図ることに焦点をあて、造形活動を通して何を身に付ける学習なのかを意識して活動することのできる児童を育てることをねらいとする。児童に何を学ぶのかを理解させ、それぞれの題材を通して目的に沿った造形活動に取り組ませることで、付きたい力を明確にした指導の在り方を探求できるのではないかと考えた。各題材における付きたい力は、学習指導要領の学年の目標の中から、児童の実態に合わせて、各題材において付きたい力を焦点化し設定することとした。

#### (2) 学校教育目標から

八街市立八街東小学校のめざす児童の姿として掲げられている「学ぶ意識が高く、学び方を知り、学び合えるこども」を受け、本校では「学び合い学習」を取り入れて授業実践の充実を目指している。学びの場において、一人ぼっちな児童を出さないということを目的に、児童が互いに声をかけ合いながら学習課題を解決する姿を目指している。授業中には、何か困ったことがあれば、周りの友達に声をかけ交流を通して理解を深めるようにし、いつでも互いに声をかけ合える雰囲気づくりに学校全体で取り組んでいる。本研究では、本校で取り組んでいる学び合い学習を図画工作科の学習でも活かすことができないかと考えた。造形活動において、児童が互いの表現の違いやよさに目を向け、友達との交流を通して自己の見方・考え方を広げることができるであろう。

以上のことから、本研究の主題を「友達との関わりを通して表現する児童の育成」とした。さらに、付きたい力を明確にした指導の在り方を探求していくことで、新指導要領の改訂に沿った児童の育成ができると考え本研究の副題を設定した。

## 2 研究仮説

### 【仮説1】

造形意欲を高める題材を設定し、何を学習するのかを明確にして学ばせることで、付けたい力を身に付けながら表現することができるであろう。

手立て① 児童の造形意欲を高めることができるように、題材の導入において、目的意識と相手意識を明確に示す。

目的意識・・・どのような題材に取り組むのか、どのような作品をつくるのか  
 相手意識・・・つくった作品を誰に見てもらうのか、どこに飾るのか

手立て② 題材の学習の流れを学習計画にして示し、児童が目的に添って学ぶことができるようにする。

手立て③ 毎時の学習の中で、付けたい力を意識させて造形活動に取り組ませることで、児童の技能の定着を図る。

### 【仮説2】

児童に互いの造形活動のよいところを認め合いながら学習に取り組ませることで、多様な表現の仕方にふれ、自分の見方・考え方を広げたり深めたりして工夫しながら表す力が高まるであろう。

手立て① 学び合い学習を生かして活動させ、困ったこと、疑問に思ったことや友達の表現について気になったことなど友達と交流しながら表現活動に取り組ませる。

手立て② 児童の見方・考え方を広げるために、互いの作品を見合ったり、友達に表現方法について交流したりする場を設ける。

手立て③ 授業の振り返りの中で、友達との関わり方について振り返らせることで、友達と関わりながら作品づくりをしようとする意識を高める。

## 3 研究内容

(1) 児童の実態 (4学年 男子20名 女子15名 計35名)

質 問 内 容	はい	どちらかといえはい	どちらかといえはいえ	いいえ
1 図工の学習は楽しいですか。	57%	31%	12%	0%
2 工夫して表現することについて				
(1) つくりたいと思ったことを作品に表すことはできますか。	31%	31%	27%	11%
(2) 工夫して作品づくりに取り組んでいますか。	20%	36%	34%	10%
3 付けたい力について				
(1) 何を学ぶのかを意識して作品をつくっていますか。	20%	20%	43%	17%

(2) これまでに図工の学習でどのような力が身に付いていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描く力</li> <li>・絵の具でぬる力</li> <li>・いろいろな道具を使う力</li> </ul>			
4 友達との関わりについて				
(1) 友達に表現の仕方について質問したり教えてもらったりすることはありますか。	17%	23%	34%	26%
(2) 友達の工夫をもとに、自分の表現の仕方を工夫していますか。	17%	26%	29%	28%

本学級の児童は、明るく元気な児童が多く、何に対しても一生懸命に取り組むことのできる児童が多い。授業中には、学び合い学習を生かして疑問に思った事を友達に進んで質問することのできる児童が多く、互いに声をかけ合いながら課題を解決する場面が見られる。

実態調査の結果から、図画工作科の学習に対して肯定的に捉えている児童が約88%と多く、意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。授業中の児童の様子からも、自分の作品づくりに楽しそうに取り組む児童が多い。

付けたい力についての質問では、何を学ぶのかを意識して作品づくりに取り組んでいる児童は40%と少なく、造形活動に取り組んでいるものの、その題材を通して何を学ぶのかを意識して学習に取り組むことができていないことが分かる。これまでに、どのような力が身に付いたかについては、「絵を描く力」「絵の具で塗る力」など、具体的な回答をすることのできる児童が見られず、無回答の児童も多く、これまでの学習から、どのような力が身に付いているのかを実感している児童はいなかった。図画工作科の学習に対しては肯定的で楽しく造形活動に取り組んでいるが、何を学ぶのかを理解し学習することができていないと考えられる。

友達との関わりについての質問では、友達と表現の仕方について交流している児童は40%と少なく、自分の考えやイメージを基にして造形活動に取り組んでいる児童が多いことが分かる。他の教科では、友達と進んで交流し、様々な疑問を解決することができているが、図画工作科の学習において、表現の仕方について関心をもって質問したり、用具・材料の使い方について確認したりするような交流は行っていない児童が多いといえる。友達の工夫を基に、自分の表現の仕方を工夫している児童も43%と少なく、友達との関りを通して自己の表現方法を広げることができていないことが分かる。

## (2) 指導観

実態調査の結果から、本学級の児童の実態として、図画工作科の学習を通して何を学ぶのかを意識して学習に取り組めていない児童が多いこと、友達との関わりを活かして様々な表現に進んでふれようとするのを苦手とする児童が多いことが分かった。そこで、本研究では、それぞれの題材において、何を学び、どのような力を身に付けるのかを明確に示し、児童一人一人がどのような力を高めることができるのかをつかめるようにしていく。さらに、友達と関わりながら、多様な表現方法にふれ、自己の表し方を広げながらより豊かに作品づくりに取り組む児童を育てていく。

児童に何を学ぶかをつかませていくために、題材の導入時にどのような力を身に付ける学習なのかを示し、学習計画とともに、いつでも児童が意識して学習に取り組むことができるようにする。また、毎時の導入時にも、身に付けたい力について確認し、児童にはっきりと目標をもたせるよう

にする。授業の終末では、付けたい力についてどのように取り組むことができたのかを振り返らせ、目的に沿った活動であったかを確認させていく。題材、そして学期を通してそのような意識を高めて図画工作科の学習に取り組ませていくことで、児童が何を学ぶのかをとらせ、児童に身に付けさせるべき力を身に付けていけると考える。

友達との関わり方については、授業中はいつでも友達と声をかけ合ってよいこととし、友達の表現方法で気になったり、知りたいと感じたりしたことについて交流するように促していく。授業の中盤で、「いいところ見つけこタイム」を設け、友達の表現方法について目を向け、多様な表し方にふれる場を設定する。その際にも、友達と自由に交流してよいこととし、友達の表現のよいところを取り入れられるようにする。その後、自分の作品を制作する時間を設け、友達の工夫を取り入れて自分の表現を広げたり、自己の表現の仕方を見つめ直して深めることができるようにしていく。振り返りの場面では、友達との関わりから自分の作品に活かすことのできた表現の仕方について振り返らせ、友達との交流を生かして活動することを定着させるようにする。

このような活動を通して、題材を通して身に付けたい力を確実に身に付けさせながら、友達との交流を生かして自己の表現を工夫することのできる児童を育てることができると考えた。

### (3) 研究の流れ

月	主 な 内 容
4	研究主題・研究目標・研究仮説・研究内容決定，児童の実態調査実施 指導案検討，実践1
5	実践2，実践3
6	実践4，授業実践の考察
7～8	研究のまとめ作成

### (4) 題材名と相手意識

題 材 名 (時数)	展示場所	作品を見てもらう対象
実践1 自分だけのオリジナル絵本をつくろう ～自分いろがみを活用して～ (5)	八街市立図書館	八街市の人々，家族
実践2 教室大変身！自然豊かな4年1組！ ～色の仲間づくりを楽しみながら～ (4)	4年1組教室	学級の友達 東小の先生方
実践3 トランスフォーム！未来のピーちゃんナッチャン ～金づちを使って木材をつなごう～ (6)	八街市商店街	八街市商店街を利用する人々
実践4 東小枝通り！3階をイメージチェンジ！ ～友達と枝をつなごう～ (3)	八街東小学校3階	東小学校の児童 自分の家族

(5) 実践

実践1

○題材名 自分だけのオリジナル絵本をつくろう  
～自分いろいろがみを活用して～

○題材を通して付けたい力  
材料や用具を適切に使い、イメージしたことを表す力

○目標及び内容、共通事項  
A 表現 (2) アを基に本題材、題材を通して付けたい力を設定した。  
共通事項 (1) ア 自分の感覚や行為を通して、形や色の感じがわかること

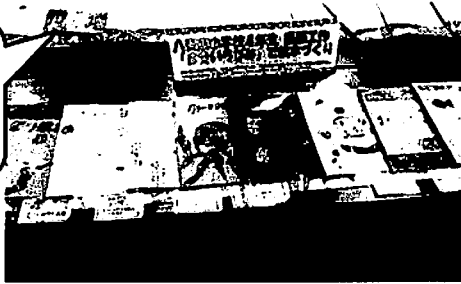
○仮説との関わり

【仮説1】

手立て①について (目的意識と相手意識)

自分いろいろがみを活かして2～3ページのオリジナルの絵本をつくることを伝え、つくった絵本は八街図書館に飾ってもらうことを確認した。図書館を利用する多くの人に見てもらうことを目的としたことで、市内の様々な人に作品を見てもらいたいという気持ちから造形活動への意欲が高まった。また、自分の家族に絵本を紹介し、感想カードを書いてもらうことにより児童の意欲化をさらに図ることができた。

八街図書館での展示の様子。

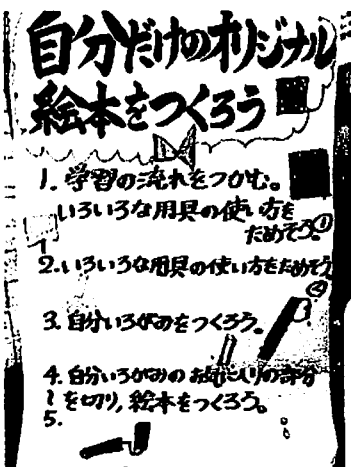


自分いろいろがみを使って絵本を制作した。



手立て②について (学習計画)

学習の流れを学習計画にして教室に掲示した。付けたい力については「材料や用具の使い方を工夫してイメージしたことを表す力」と示し、本題材で取り扱う用具の基本的な使用方法を確認し、そこからどのように工夫して表現するのかについて着目させながら学習を進めることができた。授業を進める中で、児童から様々な用具の使い方の工夫が見られた。



用具の使い方の工夫を友達に紹介している。



スポンジに絵の具を付けて回す方法を紹介した。



スポンジにいろいろな絵の具を付けてこする方法を見つけた。



手立て③について (付けたい力の意識づけ)

授業の開始時に、本時のめあての確認をするのとは別に、題材を通して付けたい力について確認する時間を設けた。毎時間、活動が始まる前に確認することで、付けたい力についての意識が高まり、用具の工夫をしながら表現する児童が増えた。

【仮説2】

手立て①について (友達との関わり)

造形活動の中で児童が互いに用具の使い方について交流しながら学習を進めることができた。班の友達の表現の仕方を見て、気になったことを質問しながら自分の表現に活かそうとする児童が多く見られた。友達との交流が見られないグループに関しては、友達の作品に目を向けるよう促すことで、互いの表現の仕方に目を向ける意識が高まり児童の交流する姿が増えていった。

手立て②について (交流の場の設定)

授業の中ごろに友達の表現の仕方を見合う時間 (いいところ見つけっこタイム) を設け、友達の作品を見合う活動を毎時間取り入れた。気になった作品や、新しい表現方法を確認しながら交流を深めていた。その後の活動では、交流を通して身に付けた方法を試す児童が多かった。

気になった作品を囲んで、どんなやり方か話し合っていた。



いいところ見つけっこタイムでは、自由に作品を見ようとした。

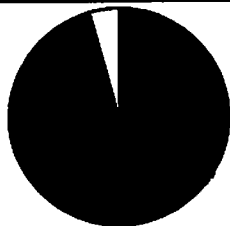


手立て③について (学習の振り返り)

授業の終末では、友達との交流を通して自分の表現を工夫することができたかを振り返らせるようにした。題材の始めのころよりも、友達との交流を通して気付くことや新しい用具の使い方を知ることができたという意見が挙がるようになった。

○題材後の振り返りについて

付けたい力が身に付いたかどうか



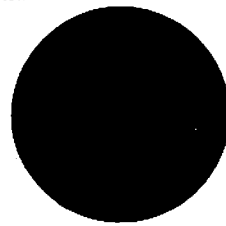
■ はい  
□ いいえ

その理由 スパッタリングをブラシでなく自分のめがきをつけた

その理由 ブラシの使い方を友達の作品を見て工夫するのを見た

その理由 いろいろなる道具のよさをつかんせんもようをいかにいいかけたのでよくなりました。

友達との関わりを通して工夫できたか



■ はい  
□ いいえ

その理由 友だちをいスパッタリングのめがきのつけかたをおしえてもらってうまくできたから。

その理由 ローラーでめがきをいかにおしえてくれてローラーでめがきをいかにかか

その理由 ストーを右にうごかすか友達のやり方をよくきいてそのやり方をいかに上になった。

実践2

○題材名 教室大变身！4年1組が大自然いっぱい！  
～色の仲間づくりを楽しみながら～

○題材を通して付けたい力  
絵の具の使い方を工夫して色や形を表す力

○目標及び内容、共通事項  
A表現(2)イを基に本題材、題材を通して付けたい力を設定した。  
共通事項(1)イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

○仮説との関わり

【仮説1】

手立て①について(目的意識と相手意識)

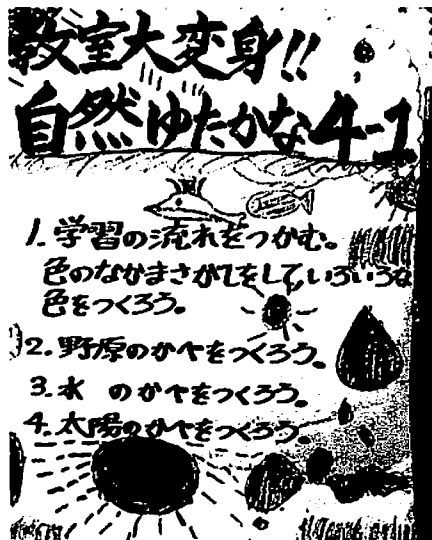
色のなかまさがしを行い、絵の具を使って様々な色をつくりながら、自然をイメージした3色で教室の壁を飾るという活動を設定した。廊下側を野原の壁(緑色)、背面を水の壁(青色)、窓側を太陽の壁(赤色)とし、毎時一面ずつ教室を飾った。飾った教室は、学年の友達や先生方に見てもらふことにし、教室に入った相手がどのような反応をするか楽しみにしながら造形活動に取り組むことができた。



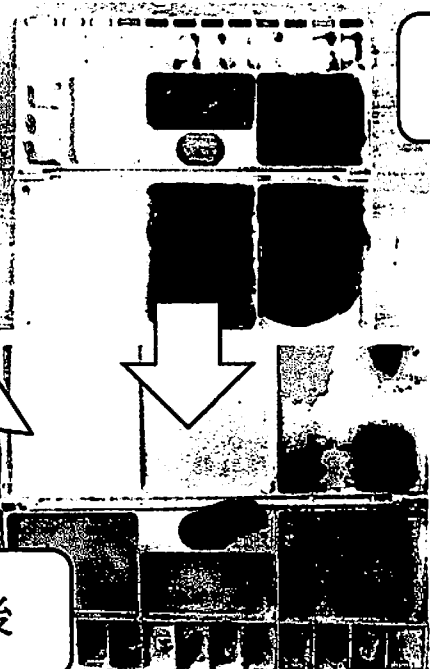
野原・水・太陽の3つの壁で教室をかざった。

手立て②について(学習計画)

学習の流れを学習計画にして教室に掲示した。付けたい力については「絵の具の使い方を工夫して様々な色や形を表す力」と示し、本題材で絵の具の使い方(混ぜ方や色のつくり方)を身に付ける題材であることを確認した。絵の具の使い方を身に付けるために、パレットの使い方について着目させ、よりよい使い方をしている児童を学級全体に紹介することで、付けたい力の定着を図ることができた。



上の写真は学習当初のパレットの様子で、下は題材の後半のパレットの様子。絵の具や水の量を調節して色を塗ることができるようになった。



前

後



手立て③について (付けたい力の意識づけ)

毎時のめあての確認をするのとは別に、題材を通して付けたい力について確認する時間を設けた。毎時間、活動が始まる前にパレットの使い方の上質な児童や、様々な色をつくることのできた児童を紹介することで、児童が付けたい力を意識して学習できるようにした。

【仮説2】

手立て①について (友達との関わり)

造形活動の中で児童が互いのパレットの使い方を見合ったり、作品を見つめながらどのような表現の仕方をしているのかを交流したりしながら学習を進めることができた。



友達の作品 (左) を見て、丸く表現する方法を交流して知り、自分の作品にも取り入れて作品を仕上げた。

手立て②について (交流の場の設定)

授業の中ごろに「いいところ見つけっこタイム」を設け、友達の作品を見合う活動を毎時間取り入れた。これまでの学習で、見合うことで様々な工夫を見つけようとしたり、それを取り入れて工夫しようとしたりする姿勢が身についてきている児童が多く、積極的に友達の表現に親しむことができていた。



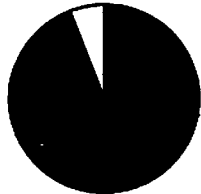
自分から友達に進んで声をかけて、表現の工夫の仕方について交流することができるようになってきた。

手立て③について (学習の振り返り)

友達との交流を通して自分の表現を工夫することができたかを振り返らせるようにした。友達との交流を通して自分の表現を工夫することができた振り返る児童が多かった。

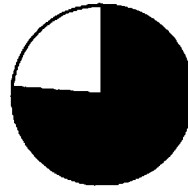
○題材後の振り返りについて

付けたい力が身についたかどうか



■はい  
□いいえ

友達との関わりを通して工夫できたか



■はい  
□いいえ

「色のなにかまじかかしが上手に  
まぜ方を工夫して表現できるようになった。  
少しづつ色をまぜていくのがうまくなっていき  
上手になった。」

「きれいな色の作り方を教えてくれた。  
自分も同じようにまぜ方を  
覚えて、上手に表現できるようになった。」

「パレットがまえは、へやへくでつかうだけ  
どいまのパレットのつかい方は、へやへくでつかう  
うまくすると、つくった色がきれいになっていくことまで  
まなんだ。」

「ほくしは友達の色を見て、自分も同じように  
なにかを表現しようとしてみたら、うまくなって  
いって、友達と比べて、上手に表現できるよう  
になった。」

実践3

○題材名 トランスフォーム！未来のピーちゃんナツちゃん  
～金づちを使って木材をつなごう～

○題材を通して付けたい力  
身近な材料をもとにして新しい形を表す力

○目標及び内容、共通事項  
A表現(2)アを基に本題材、題材を通して付けたい力を設定した。  
共通事項(1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色の感じがわかること

○仮説との関わり

【仮説1】

手立て①について(目的意識と相手意識)

10年後のピーちゃんナツちゃんはどうな姿になっているか?というテーマに沿って作品をつくることを目的に本題材を設定した。児童にとって身近な材料である木材、そして落花生を用いて作品をつくった。出来上がった作品は八街ミュージアムを通して八街商店街を利用する人に見てもらうことにした。また、落花生の殻をいただいた落花生の販売店でも展示をしてもらうことで、より多くの人に見てもらう機会が増えた。これまでの題材と異なり、市内の人を対象とした作品づくりとなり、児童の意欲化をいっそう図ることができた。



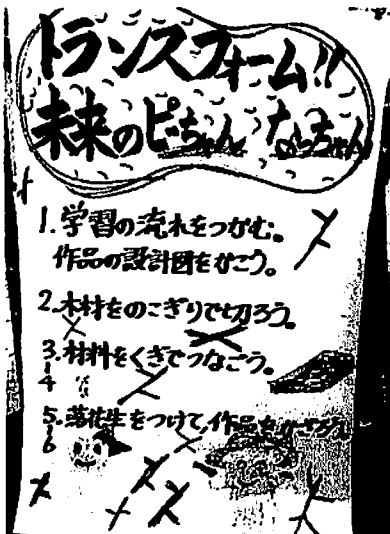
八街ミュージアムのポスターと  
商店街の様子



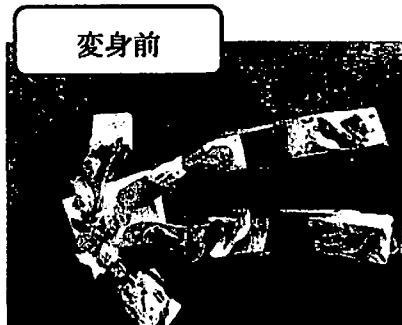
落花生のますだ

手立て②について(学習計画)

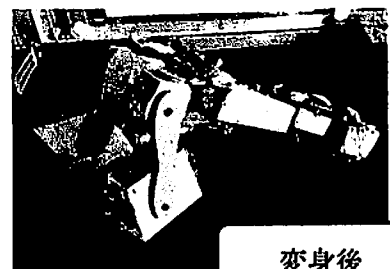
学習の流れを学習計画にして教室に掲示した。付けたい力については「身近な材料をもとにして自分のだけの新しい形を表す力」と示し、木材をつないだり、落花生を飾りとして取り付けたりすることで、自分だけの形をつくりだす学習であることを確認した。のこぎりや金づちの使い方を確認し、木材を切る、くぎでつなぐ、落花生で飾る、という工程で学習を進めた。各工程の中で、自分だけの形を表現するために用具の使い方を身に付けながら作品づくりを進めることができた。



落花生を使  
って、作品  
の飾りつけ  
をした。



変身前



変身後

手立て③について (付けたい力の意識づけ)

授業の開始時に、本時のめあての確認をするのとは別に、題材を通して付けたい力について確認する時間を設けた。各工程の中で、どんな形に切るか、どんなつなぎ方にするか、どんな動かし方ができるか、どんな飾り方ができるか、自分だけの形を表現できるよう確認しながら学習を進めた。そうしたことで、どの学習でも自分だけの新しい形に意識を置きながら造形活動に取り組ませることができた。

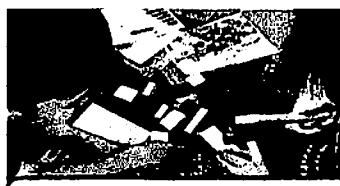
【仮説2】

手立て①②について (友達との関わり) (交流の場の設定)

本題材では、表現の仕方よりも技能に関する交流が多かった。木材の切り方、くぎの打ち方、接続の仕方、落花生の付け方等について、交流しながら活動した。「いいところ見つけっコタイム」でも、技能に関する交流が目立った。上手にできている友達に、「どうやってやったの?」といった声掛けをし、その会話が周りの児童に広がっていく場面が何度も見られた。



のこぎりの使い方



くぎの打ち方



接続の仕方



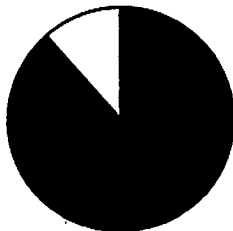
くぎを真っ直ぐに打つ方法や、落花生をどうやって上手につけているかを確認した。

手立て③について (学習の振り返り)

友達との交流を通して自分の表現を工夫することができたかを振り返らせるようにした。本題材では、表現の工夫よりも、様々な方法を身に付けたという児童のつぶやきが多かった。

○題材後の振り返りについて

付けたい力が身に付いたかどうか



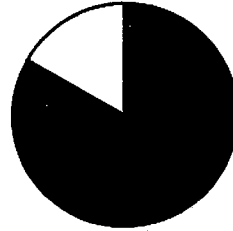
■はい  
□いいえ

その理由  
ラッパのせいにつかたのいくぶん  
をしたりいろいろためせたから。

その理由  
自分の形ができておもしろい  
ときはもういじらした

その理由  
のこぎりの作りたてのものがいい

友達との関わりを通して工夫できたか



■はい  
□いいえ

その理由  
しりあとの木ざいにラッパのせい  
でだんごがなるのがおもしろい

その理由  
のこぎりできるときは、ひとときは  
ぶくするとよいといわれた。

その理由  
ビーナッツのつけ方工夫できた。(友達のついで  
でみんなとくいて、おもしろくできました)

#### 実践4

○題材名 東小枝通り！3階をイメージチェンジ！  
～友達と枝をつなごう～

○題材を通して付けたい力  
材料を組み合わせて形を変える力

○目標及び内容、共通事項

A 表現（2）アを基に本題材、題材を通して付けたい力を設定した。  
共通事項（1）ア 自分の感覚や行為を通して、形や色の感じがわかること

○仮説との関わり

##### 【仮説1】

手立て①について（目的意識と相手意識）

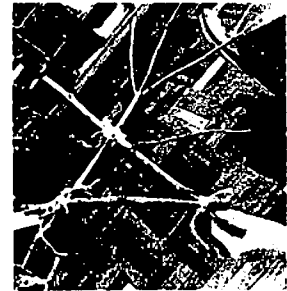
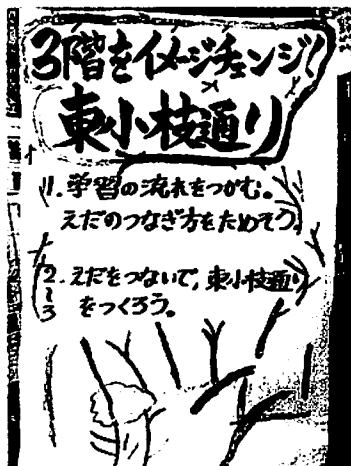
自分で集めた枝を麻ひもでつなぎ、枝をつないでつくった作品を校舎の3階廊下に飾り、「八街東小枝通り」をつくることを伝え、児童の造形意欲を高めた。八街東小に関わるたくさんの友達や大人に通ってもらうことで、自分たちの作品に親んでもらうことができるようにし、児童の意欲化に結び付けることができた。



枝を麻ひもで結び、天井からつるして飾った。

手立て②について（学習計画）

学習の流れを学習計画にして教室に掲示した。付けたい力については「身近な材料をもとにして友達と協力しながら新しい形を表す力」と示し、木材をつなぐ活動を通して、自分たちだけの形をつくり出すことを確認した。枝をつなぐためのひもの結び方を工夫しながら、枝を平面や立体的につなぐ活動へと発展させることができた。



基本の結び方（方結び）をベースにして、様々な結び方を考えながら枝をつないだ。  
（へび結び、夏の大三角結びなど）

手立て③について（付けたい力の意識づけ）

本題材では授業の開始時に、友達と協力して活動を進めることやどのようなつなぎ方があるかについて工夫することを取り上げるようにした。活動が進むにつれ、互いの作品をつなぐための工夫をしたり、グループ全体でつくるという気持ちを高めたりしながら学習に取り組ませることができた。

【仮説2】

手立て①②について (友達との関わり) (交流の場の設定)

本題材では、枝のつなぎ方やひもの結び方に関する交流が多かった。枝のつなぎ方としては、最初は主に平面に枝をつないでいくことが多かったが、後半になると立体的なつなぎ方を試すグループが増えた。ひもの結び方については、基本の結び方から様々な方法を見つけ、友達と共有しながら頑丈に結ぶことのできる方法を確認し合いながら作品づくりに取り組んでいた。児童から八の字結びがよいという意見が多く挙がったので、全体の場でも紹介し学級での共有を図った。



制作中に友達とどのようにつないで作品をつくるか相談していた。交流は自由に行うが、授業の中で交流の場を毎回設けるようにした。

授業の振り返りの場面。自己評価をハンドサインで表す。

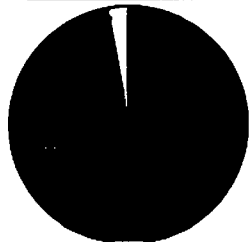
手立て③について (学習の振り返り)

授業の終末では、友達と協力しながらグループごとに新しい形をつくることのできたかを振り返らせた。最後の授業での振り返りでは、ほとんどの児童が本題材での付きたい力を意識して活動できたと学習を振り返っていた。



○題材後の振り返りについて

付きたい力が身に付いたかどうか



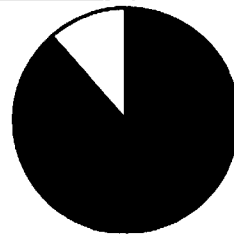
■ はい  
□ いいえ

その理由  
友達と枝を糸できつくしはり、かたい新しい形を作れた。かたい形にできあがった。

その理由  
どのぼんともちかうえたのかたまりを糸でなでつくった。

その理由  
えびずとりこのをんじわをたもじれたの形を、協力しあつてつくった。

友達との関わりを通して工夫できたか



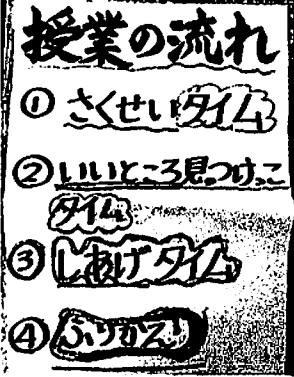


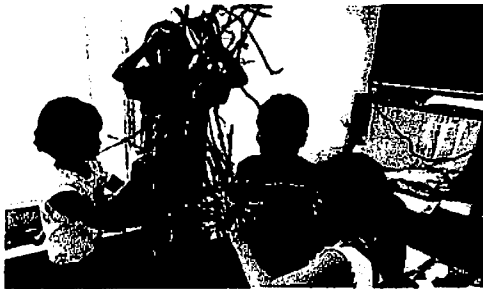
■ はい  
□ いいえ

その理由  
さなとくんに8の字結びを教わって、みてから自分でかたくてかみじょうにできたのでよかったと思います。

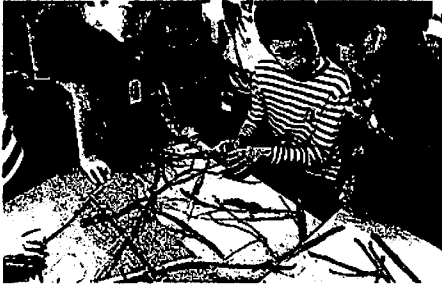
その理由  
友達にかんじわをたもじない結び方を教えてもらって、そのわきをつかえたから。

その理由  
8のじむすびが夏のた三角おすびなど、教えてもらった。

(5) 児童の学習活動

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り</li> <li>・付きたい力の確認</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの活動を振り返り、本時の活動とのつながりを意識させるようにする。</li> <li>・題材を通して付きたい力を確認し、児童が目的に沿った造形活動ができるようにする。</li> </ul> <p>学期を通して同じ学習の流れを継続し、交流の場を活かしながら、前半から後半の活動が充実するようにした。</p> <p>めあての確認後に、本題材での付きたい力を確認する。授業の開始時での児童の定着をハンドサインで確認した。</p>	<p>掲示物</p> <p>前時までの作品</p> <p>麻ひも 枝 ワイヤー</p>
15	<p>2 枝のつなぎ方を工夫しながら、作品をつくったり飾ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの作品に枝をつなぐ</li> </ul>  	<p>友達と協力して枝をつないで、「東小枝通り」をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が安全面に気をつけて活動できるように、枝の取り扱い方や活動の進め方の確認をする。</li> </ul> <p>グループでの活動の様子を見ながら、友達との関わり合いを支援する。</p> <p>天井や壁に、ワイヤーやひもを張り、児童が発想をふくらませながら活動に取り組めるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を飾った後にも枝をつないでよいことを確認し、友達との活動につながるをもたせるようにする。</li> <li>○自分の活動と友達の活動を進んで結びつけようとしている。(学びに向かう力)</li> <li>・作品を飾った後にも枝をつないでよいことを確認し、友達との活動につながるを</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

5 3 いいところ見つけっこタイムを行う。



1 5 4 交流したことを活かして、後半の作品づくりに取り組む。

5 6 本時の活動の振り返りをする。  
・友達との交流を通して表現を工夫できたか  
・付けたい力を意識して学習できたか



もたせるようにする。

○自分の活動と友達の活動を進んで結びつけ、自分たちのグループの形を表現している。  
(知識及び技能)

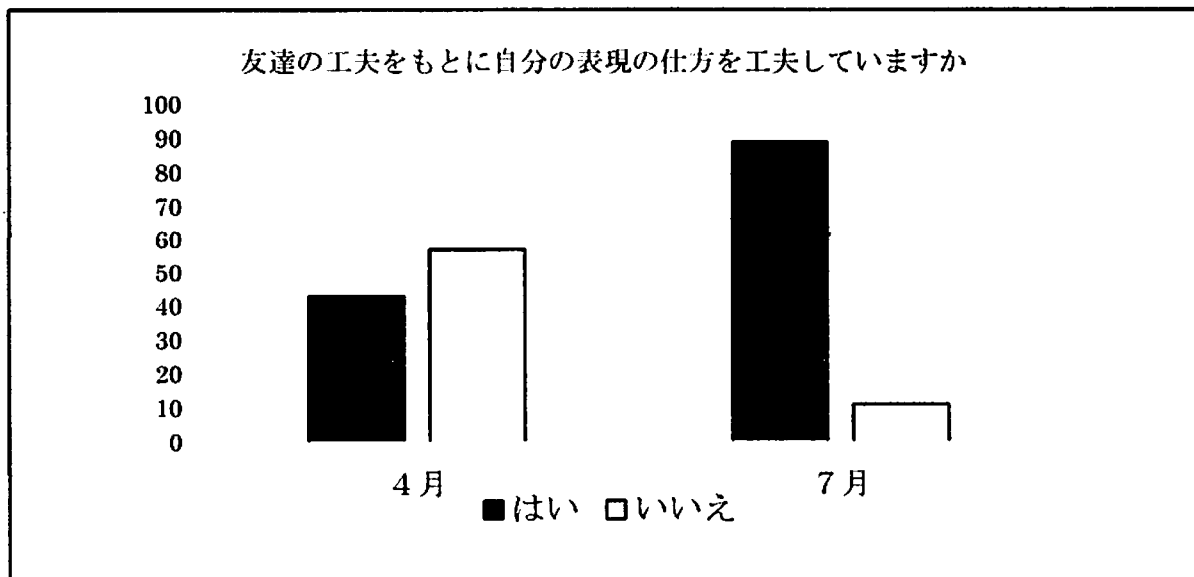
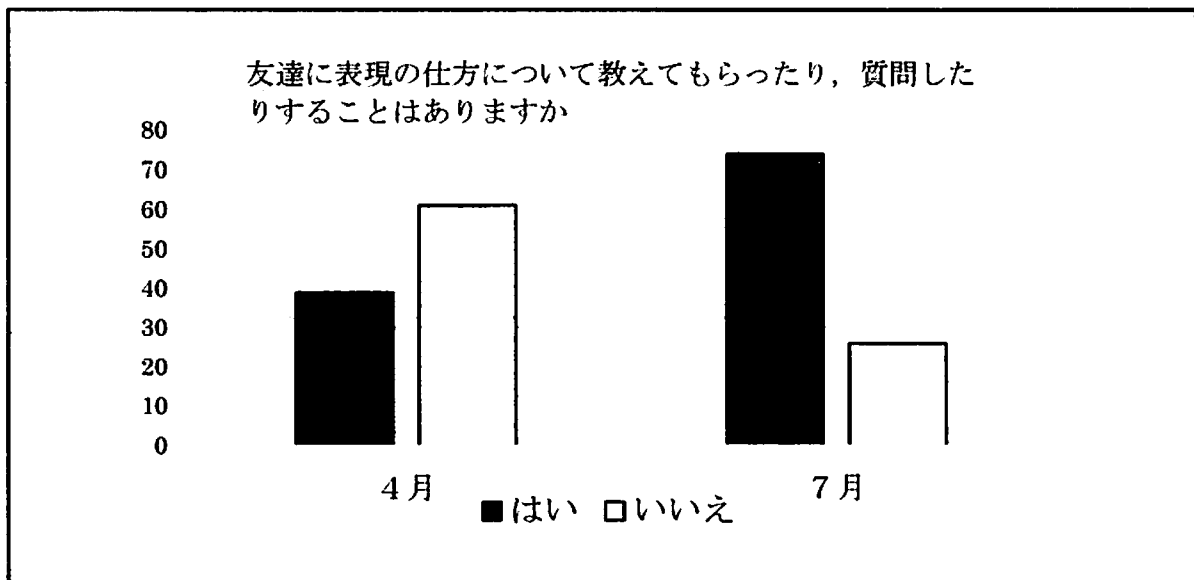
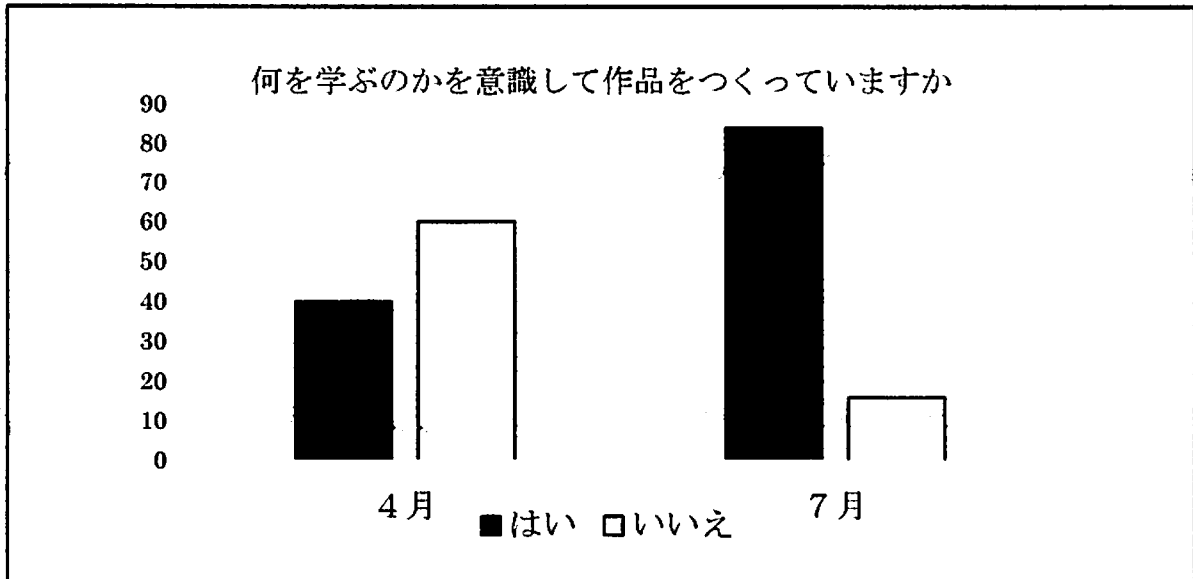
「いいところ見つけっこタイム」中は、席を離れて自由に友達と交流し、様々な方法を共有し合わせる。

- ・友達の作品を見る観点を確認し、児童が互いの表現の仕方のよいところに意識して見合うことができるようにする。
- ・交流が停滞している児童には、他の児童との会話に結びつけ、多様な考え方に気付けるようにする。
- ・交流の際に児童から出てきた方法や工夫について確認し、造形活動に取り入れることができるようにする。
- ・児童の評価をするために、作品づくりの過程や飾り方の様子を写真に撮る。
- ・友達との交流を通してどのような気づきがあったかを確認し、全体で共有できるようにする。
- ・振り返りの観点を明確に示し、目的に沿った活動ができたかを振り返ることができるようにする。

毎時の友達との関わり方と、付けたい力を意識して学習できたかをハンドサインで振り返らせた。

#### 4 成果と課題

##### (1) 児童の変容 (アンケート結果の比較)





## (2) アンケート結果から

- ・「何を学ぶのかを意識して作品をつくっていますか」の質問に対しては、84%の児童が肯定的な回答をしており、4月と比べて44%の変化があった。
- ・「友達に表現の仕方について質問したり教えてもらったりすることはありますか」の質問に対しては、74%の児童が肯定的な回答をしており、4月と比べて35%の変化があった。
- ・「友達の工夫をもとに、自分の表現の仕方を工夫していますか」の質問に対しては、89%の児童が肯定的な回答をしており、4月と比べて46%の変化があった。

## (3) 成果

- ・友達との交流を通して、自分の表現の仕方を広げることができる児童が増えた。
- ・各題材の導入時に、相手意識と目的意識をもたせて学習に取り組ませたことにより、児童の造形活動への意欲化を図ることができた。また、つくった作品を相手に見てもらうことの喜びや楽しさを実感させることができた。
- ・授業中に、各題材を通してどのような力を身に付けるのかを意識させたことにより、児童が何を学ぶ学習なのかをとらえて活動：」に取り組むことができるようになった。
- ・付けたい力や友達との交流の様子について毎授業で確認してきたことで、技能の習得や交流を通して自分の表現を工夫することに対する意識を高めながら造形活動に取り組むことができた。
- ・友達の表現の仕方に目を向けようとする姿勢が身に付き、研究当初よりも、互いの作品を見合おうとする児童が増えた。

## (4) 課題

- ・児童の実態をしっかりと把握し、児童に合った付けたい力や題材を設定することができるよう、教材の研究を入念に行っていかなければならない。
- ・児童の交流の様子として、活動に関係のない会話に広がることもあった。教師が交流の観点を明確に示すとともに、児童が何のために交流をするのかを理解させ、自分の見方・考え方を広げられるような交流場面を増やすことができるようにしていく必要がある。
- ・児童が互いの表現の仕方について関心をもつようになってきているので、教師側がどの部分に着目させるかを的確にとらえて児童に返せるようにしていかなければならない。